



## 教職課程の現状について —働き方改革への期待—

名古屋音楽大学特任教授 川合恒之(S58年卒)

教職担当として本大学に着任して4年目を迎えました。着任当初、教職課程を履修している学生は、当然教員を目指しているものだと思い込み、大いに空回りしたことをよく覚えています。本大学はここ数年、全学生の6割程度が教職を履修していますが、教員を第一に考えて目指している学生はその2割にも満たないと思います。かといってそれ以外の学生が免許だけがあればいいと思っているわけではありません。ほとんどの学生が「どうしようか迷っている」というのが本当の気持ちではないかと思えます。そこで迷っている理由を尋ねてみました。

一つは「授業がちゃんとできるだろうか」「保護者とのように向き合えばよいだろうか」「要望や苦情に対処できるだろうか」「不登校やいじめにきちんと対応できるだろうか」などの現場での仕事に対する不安でした。これらについては現状を伝えるとともに、対処の実例を伝えることで少しずつ解消に努めています。もう一つは「休日出勤や長時間労働への不安」でした。

学生はいわゆる「ブラックな職場」のイメージを思ったより強く持っています。教員の働き方改革が進む中で「ワーク・ライフ・バランス」という言葉をよく耳にするようになりました。先日学生に働き方について尋ねてみたところ、「仕事も大切にしたいが、自分の時間や家族との時間も大切にしたい」と全員が答えました。

「ずいぶん改革が進んでいるみたいだよ」と現場でのさまざまな取り組みについて具体例を挙げて説明をしますが、なかなか信じてもらえません。実際に教育実習に行ってその目で確かめてきますが、多くの学校が「以前とは全然違うよ」と言われるばかりで、以前を知らない学生は、「先生たちはすごい」という感想と共に、多忙なイメージが強く印象に残るようです。

「子どものために」という、先生をやる気にさせる魔法の言葉があります。

大抵の先生はこの言葉を聞けば無理を承知でもがんばってしまいます。無くしてはならない大切な気持ちであることは間違いありません。しかし、今働



いてみえる皆さんはもちろんですが、これから教員を目指そうとしている学生たちのためにも、働く環境を整備するための、さまざまな施策を推し進めてほしいと強く思います。

それでも、毎年30名以上の学生が、本務教員、常勤講師、非常勤講師など「先生」と子どもたちから呼ばれる立場で活躍しています。彼らは様々な不安を乗り越え、責任と覚悟をもって取り組んでいると思います。ぜひ名古屋音楽大学卒業の後輩を見かけた時には、教育実習も含めて温かくご指導いただけるとありがたいです。よろしく願いいたします。

## 令和5年度 役員・参与・顧問(敬称略) ~よろしく願いします~

会長 川合 恒之(名古屋音楽大学特任教授)  
副会長 塚寄 崇史(名古屋・南陽中学校常勤講師)  
庶務 平賀 真司(名古屋・笠寺小教諭)  
会計監査 中村 由美子(名古屋・守山西中教諭)  
参与 清水 皇樹(同音楽学部長)

副会長 藤松 真人(名古屋・助光中拠点校指導員)  
庶務 宇佐美ほたか(名古屋・守山中教頭)  
会計 斉藤 玲子(名古屋市教育センター指導主事)  
参与 佐藤 恵子(名古屋音楽大学学長)  
顧問 百合草 薫(名古屋・東丘トワイライト)

## 第1部



### 「金管楽器の楽しみ」

—ユーフォニアムの魅力を通して—



名古屋音楽大学 露木 薫教授をお招きして

第1部では、名古屋音楽大学教授で日本を代表するユーフォニアム奏者の露木 薫先生を講師にお迎えして行いました。露木先生は、「産業革命で発明されたピストンバルブの楽器への応用」、「英国を起源とする救世軍の進軍とブラスの発展」、「フランス革命後の宮廷楽士」、「自身が経験したパリ国立高等音楽院における難関な卒業試験」（5年間で2位以内に入らないと退学とのことでした）、「アメリカ軍楽隊とA. サックス、海兵隊とJ.P. スーザとの関係や彼らが考案した楽器」といったお話と、関連する楽器の演奏をしてくださいました。楽器は、ユーフォニアム、バリトン、テナーチューバ、サクソルンバス、ダブルベルユーフォニアムといった5種類の同属楽器、曲目は久保田初音さんの伴奏で、「カンタービレ」（N. パガニーニ作曲）、「6分30秒のソナタ」（C. パスカル作曲）、「南十字星」（H.L. クラーク作曲）をはじめ、合計7曲にもものぼりました。お話はとても分かりやすく、演奏には各楽器の特徴がよく表れていました。先生の穏やかなお人柄と多彩なテクニックは参加者を深く魅了し、いつの間にか時間が過ぎていました。



## 第2部



### 情報交換会



第2部では、情報交換会を行いました。校種別のグループに分かれ、普段の授業の悩みや疑問を出し合い、一緒に考えました。

中でも、ICT機器の活用については、「タブレットを活用した合唱のパート練習」、「子どもたちが各自で録画して提出するリコーダーテスト」、「音楽ゲームソフトを活用したリズム学習」が紹介されました。また、地域や学校によって音楽室の環境に大きな差が生じていることが明らかになり、ICT機器の効果的な活用に向け、環境を整えていくことの大切さを学びました。

